

令和6年度 第1回 安曇野市水環境審議会 会議概要

1	審議会名	令和6年度 第1回 安曇野市水環境審議会
2	日 時	令和6年4月30日 午後2時00分から午後4時00分まで
3	会 場	安曇野市役所 本庁舎4階 全員協議会室
4	出席者	遠藤委員（会長）、村上委員（副会長）、門崎委員、崎元委員、保尊（と）委員、 中屋委員、丸山委員、山田委員、原委員、宮澤委員
5	市側出席者	吉田市民生活部長、百瀬環境課長、所環境課長補佐、土屋環境政策担当、 高橋環境政策担当
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	1人 記者 1人
8	会議概要作成年月日	令和6年5月10日
協 議 事 項 等		
次第		
1	開会	
2	会長あいさつ	
3	事務局の自己紹介	
4	協議事項	
	(1) 点検・評価等について	
	(2) 令和6年度事業計画について	
5	その他	
	(1) 令和5年度第3回安曇野市水環境審議会【3/14開催】における水環境アドバイザーの講義 (神奈川県秦野市)における情報交換	
	(2) 次回（第2回）の審議会開催について	
	(3) その他	
6	閉会	
会議概要		
4	協議事項	
	(1) 点検・評価等について	
	事務局：(資料1から資料6の説明)	
委 員	資料7ページの「節水・涵養の優良事例チラシ」はどこで見られるのか。サントリーと 連携して出前授業を実施したとあるが、サントリーが実施している地下水保活動の内容 を伺いたい。	
事務局	チラシは市のホームページに掲載している。また昨年の第2回目審議会の資料にも掲載 している。サントリーは水を育てる「水育」を事業取組しており、模型を使って小学校 で座学を行っている。	
委 員	資料7ページの地下水ボランティアとはどのようなことをしているのか。また、高規格 道路の工事が始まった場合、千曲川河川事務所の地下水位観測の位置は変わるのか。	
事務局	ボランティアは、令和元年からはじまった。市が井戸水の水質を観測するかわりに水位 を毎月計して報告してもらおうというものであり、調査させていただいたデータをフィー ドバックさせていただこうと思っている。高規格道路建設に関連して、千曲川河川事務 所の観測井の位置は変更しないと聞いている。	
委 員	ボランティアは全て個人の井戸か。	
事務局	個人の井戸である。	
委 員	評価シートの年次経過率というのはどのような数値か。また、資料27ページの水質検査	

の結果について、地下水の深さによって数値が変わると思うが、深さによる変化はあるのか。それから、資料 9 ページの水収支評価について、市外から流入する地下水はどんな根拠で数値が出ているのか。

事務局：年次経過率は、水環境基本計画の後期計画期間 5 年間で 100%とした経過率で、1 年度あたり 20%となる。後期期間は令和 4～8 年度で、令和 5 年度は 2 年度目の評価であるため年次経過率は 40%となる。水質検査の結果数値と深さの関係は、場所と深さに関係があるのではないかと考えている。検査用の地下水採取は夏冬の年 2 回実施しており、夏のほうが硝酸態窒素の数値が高い。夏は冬に比べて地下水位も高いため、地表付近に存在する硝酸態窒素が地下水に含有していく率も夏のほうが高いのではないかと考えている。水収支評価にある市外から流入する地下水は、農林水産省が公表している水田の作付面積を参考にして、水田の水を計算している。

委員：資料 28 ページの No. 1～3 の井戸の深さがわかれば教えてほしい。

事務局：No. 1 が 160m、No. 2 が 250m、No. 3 が 150m。

委員：それぞれの井戸の標高はわかるか。

事務局：わかり次第ご連絡する。

委員：資料 7 ページの課題に冬場の水について書いてあるが、冬水を有効に使って地下水に戻していくという取り組みを課題に入れておいてほしい。

事務局：今後の課題に盛り込むこととしたい。

委員：資料 2 の揚水量では養魚用が結構多くなっている。養魚も節水をしているのか。

事務局：養魚の業者には、まだヒヤリングをしていない。本日、矢花委員が来ていれば詳しく聞けたと思う。

委員：ニジマスの養殖場はわさび田よりも下流にあるから、養殖場で地下水を取っても影響ないのではないかと考えている。

委員：ご指摘の通りだと思う。養魚用のポンプは深いところに入れないので、年中くみ上げてても水位の変化はないと思う。

（２）令和 6 年度事業計画について

事務局：（資料 7 の説明）

委員：水利権の見直しについて、冬場に水を回してもらえるような水利権を獲得する意向はあるか。

事務局：松本盆地全体での冬場の水利権の量を国土交通省に確認できていないため、そこから調べていこうと考えている。

委員：国は地下水をもっと大切にしようと言っている。冬場に対策すれば、夏場よりも地下水に戻る可能性がある。そういう働きかけを国にしていけば、やがて認めてくれるのではないかと考えている。

委員：私もそう思う。「環境用水」という言葉がある。環境用水として水を回してもらえるようにうまく説明できたら可能性があるのではないかと考えている。

事務局：実際に冬場の取り組みのほうが地下水涵養になるので、国に働きかけたいと思う。

委員：安曇野市の場合、冬場の火災に備えて、犀川から新田堰に水を取っている。

会長：「環境用水」、少し前だと「地域用水」という言葉があったと思う。消防や水路維持管理のために冬場でも水路に水を流さないといけないという議論があった。具体的な手続きの面はわからないが、確か仙台市で環境用水を取った事例があると思う。

委員：そういった権利は、現在の水利権に入っている。「不特定用水」と言っている。冬は少ない。例えば梓川土地改良区では、夏場最大 30～40t の水が取れるが、不特定用水では 5～6t になる。本当は末端の水路まで全て水を流す必要があると思うが、冬場に水を流すと凍ったり溢れたりするので止めてしまっている。ただし、不特定用水としては常に流している。冬場の一番の問題は、渇水である。冬場に水が取れないのは、渇水のため。

委員：長野県安曇野建設事務所が黒沢川に遊水池を造っている。完成後は大型排水路につながることになる。河川管理者はこれに対して地下水の涵養をうたっている。そういう意味で、県とタイアップして黒沢川の水を、上流の遊水池や下流の排水路で有効に使ってほしい。

会長：遊水池について、以前の会議で池そのものを浸透性にしたらどうかというアイデアが出たが、もう完全にコンクリートになったか。

事務局：遊水池に穴をあけることは県としては考えていないと回答をいただいております、市としては了解している。

会長：遊水池がコンクリートだとしても、貯めた水を少しずつ流してもらおうとか、遊水池と排水路を一体として涵養に役立つようにしてもらえれば、安曇野市にとってよいと思う。

委員：昔、奈良井川水系から拾ヶ堰に水を引いていたようである。契約の内容はわからないが、その水をもらう権利があるのではないか。そこを調べて検討してもらえればありがたい。

事務局：拾ヶ堰土地改良区では水路維持用水として水利権を持っている。しかし、冬場に水を利用する人がいない上、管理が大変で拾ヶ堰より下流では各水利組合が管理しなければならないという事情のため、水門を閉じている。令和6年度から信州大学に委託している研究では、梓川土地改良区と烏川土地改良区で取得している水利権が終わって拾ヶ堰に流れ込んでいる水を冬期湛水として活用できないか検討する。また、この点は国と調整していなければならない。

委員：水結の池清掃協力で、高校生などを取り込んでいけないか。

事務局：若い方への呼びかけは検討したい。

5 その他

（１）令和5年度第3回安曇野市水環境審議会【3/14開催】における水環境アドバイザーの講義（神奈川県秦野市）における情報交換

委員：秦野市の課長さんが28年間同じ部署にいるのが単純に素晴らしい。

委員：秦野市の活動は、担当は環境課でも内容は市長直属という感じがした。内容として地下水の保全・利用・活用まで入っているので、安曇野市の場合なら市民生活部だけではかなり大変だと思う。

委員：資料45ページに蛇口から秦野名水が出ているというイラストがある。安曇野の里にも水汲みできる場所があるが、水が流れていて無駄だと思っている。水を汲める場所にコックをつければ無駄がなくなるし、水を大切にしないといけないという趣旨説明も併せてできると思う。

委員：蛇口をつける話は以前にもあった。もったいないと思う人は素晴らしい。

事務局：前回もその話題があった。観光課が所管なので話しておく。

（２）次回（第2回）の審議会開催について

事務局：令和6年度第2回安曇野市水環境審議会は、7月29日（月）午後2時からとしたい。

（３）その他

委員：水を入れたら湧水地あたりまでどれくらいの時間がかかるのか。

委員：湧水地の水の滞留時間を測ったことがあり、10年という結果がでて、地下水はゆっくり流れていることがわかった。ただし、圧力は秒速1,500mで伝わるので、湧水地の水は、もっと早くピストンで押し出されるように押し出されている。

以上